

令和6年3月27日

## ▼タイトル

「大溝陣屋総門」が4月1日にオープンします

## ▼概要

重要文化的景観「大溝の水辺景観」の重要な構成要素で、市の指定文化財でもある「大溝陣屋総門」の復原工事が完了し、4月1日（月）から重要文化的景観拠点施設としてオープンします。江戸時代に大溝陣屋の正門として建てられた当時の姿をできる限り再現し、内部は、地域案内の拠点や大溝城を始めとする地域の歴史を伝える展示室として活用します。また、敷地内には旧大溝城下町地域で今も使われる2系統の古式水道を引き込み、地域の伝統的な水利用に触れることのできるコーナーを設けました。

▼オープン日時 令和6年4月1日（月）午前10時00分

▼場所 高島市勝野1688番地 大溝陣屋総門

▼内容 10:00 開館宣言

（大溝の水辺景観まちづくり協議会 会長 澤村茂美）

- ・「よみがえる大溝城—織田信長が築かせた水城」の初上映
- ・指定管理者による展示案内および施設紹介
- ・オープン記念品の無料配布（先着30人）

※映像の1回の上映時間は約15分。

1日は、来館者の状況に合わせて随時上映します。

## 重要文化的景観拠点施設「大溝陣屋総門」

開館時間 午前10時から午後5時まで

休館日 水曜日、休日の翌日、12/29～1/3

入館料 無料

主な展示品 大溝祭り曳山模型、周辺地域の地形ジオラマ、大溝城跡出土瓦  
鴨稻荷山古墳出土品模型、伝分部光信着用甲冑 他

施設管理者 大溝の水辺景観まちづくり協議会 電話：0740-36-2011

## ▼問い合わせ先

○所 属：教育総務部文化財課

○担 当：山本

○電話 番号：0740（25）8559

○ファックス：0740（25）8145

# 大溝陣屋 総門

大溝陣屋総門は、城下町に配置された武家地と町人地の境界に設けられた門で、その位置および名称から、塀で囲まれた藩庁と武家屋敷群からなる大溝陣屋への出入りに使われる最も重要な門であったと考えられます。従って、総門は江戸時代初期に陣屋が整備された当初から設けられていたと推定されますが、現在の建物は、棟札から宝暦5年（1755）に建てられたものであることがわかっています。

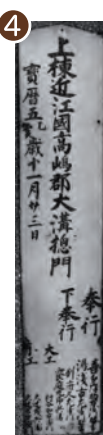
《敷地》敷地は東西に細長く、北側は水路を挟んで町人地であった地域の南の東西通りに面し、南側は武家地内の細い通路に面しています。東側の駐車場は、江戸時代には陣屋の一角で練兵場があった場所と考えられます。①

《構造》桁行約17.7m、梁間約3.9mの長屋門で、屋根は入母屋造の棧瓦葺、中央やや西に扉口があります。また左右には高い塀がめぐらされていました。

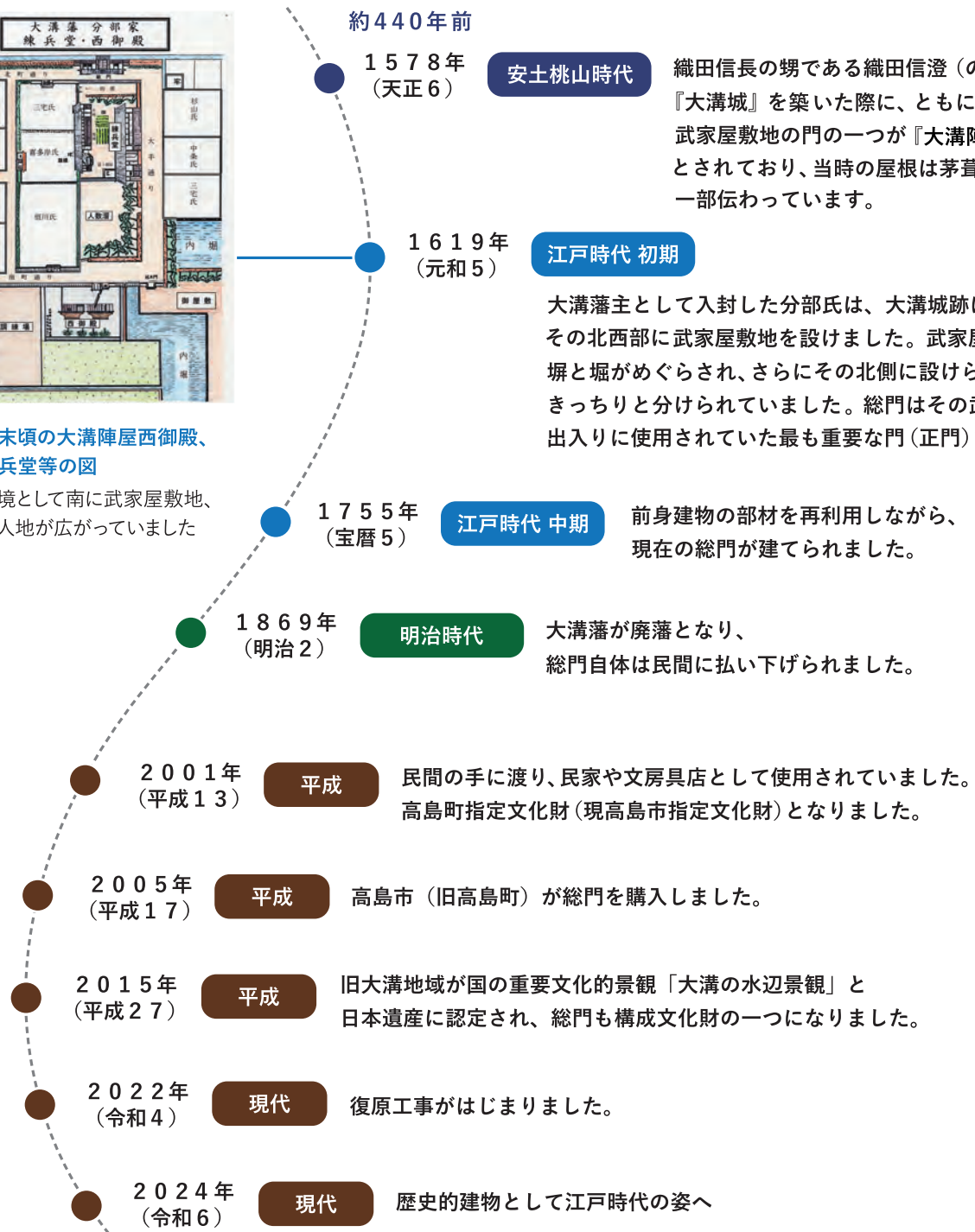
《瓦》軒瓦や鬼瓦には分部家の定紋が使われています。②

《柱の礎石》整備工事で増築部分を解体したところ、前を流れる瀬戸川に沿った石列が検出され、長屋部分はその石列を礎石の一部として建てられていたことがわかりました。③

《棟札》棟札は、扉口中央の牛梁上の束の背面に打ち付けられていることが2003年に旧高島町が実施した調査で発見されました。上棟は宝暦5年（1755）で、地元音羽村の村谷加右衛門が大工を務めたことがわかります。④



① 幕末頃の大溝陣屋西御殿、練兵堂等の図  
総門を境として南に武家屋敷地、北に町人地が広がっていました



文房具屋として活用されていた頃



復原工事ははじまる直前の姿



復原工事中のようす



復原後（現在）

江戸時代のものではないものの、シンボルの「総門」看板と石橋は引き継がれました





重要文化的景観「大溝の水辺景観」

# 国選定 重要文化的景観 大溝の水辺景観

## 〈地形〉

「大溝の水辺景観」は、比良山地と琵琶湖との間に展開する安曇川三角州の南端に位置し、琵琶湖北西岸に迫り出す明神崎の北側に広がる一帯の景観です。地域南部には湖岸砂州により琵琶湖と隔てられた内湖の乙女ヶ池が広がります。

## 〈歴史〉

この地域は、古代北陸道の三尾駅および湖上交通の主要湊である勝野津に比定される交通の要衝として機能してきました。天正6年（1578）、織田信長の甥にあたる織田信澄は、大溝城および城下町を建設するとともに、街道の付け替えや大溝湊の整備を行いました。また乙女ヶ池東側の砂州上に展開する打下地区には、戦時に水軍となる集団を配置しました。元和5年（1619）に大溝藩主となった分部光信は、城跡に陣屋を置くとともに城下町に武家地と町人地を配置し、境界に総門を設けました。武家地は堀で囲まれた規模の大きい地割であるのに対し、町人地は間口が狭く奥行きが深い短冊形の区画割とされ、通りの中央には水路が設けられました。明治初期の蒸気船就航、昭和初期の鉄道敷設など、交通事情は変化してきましたが、旧街道沿いに村列形態を成す集落構造を残しています。また旧城下町地区では醸造業や製材業等が、打下地区ではおもに農業が営まれる生業構造がそれぞれ現在も継承されています。

## 〈暮らし〉

旧城下町の区域では、近世に遡る2系統の古式上水道が現在も利用されており、この敷地内ではその両方の水を引き込み、システムの紹介をしています。また一方で、打下集落では、江戸時代に琵琶湖側に高波・浸水防止のための石垣が築かれました。さらに水草が繁茂する乙女ヶ池には、水草の刈り取りを行う共有地があり、内湖の共同利用の在り方を伝えています。

「大溝の水辺景観」は、中近世に遡る大溝城およびその城下町の空間構造を現在も継承する景観地で、琵琶湖および内湖の水または山麓の湧水を巧みに用いて生活・生業を営むことにより形成された文化的景観です。



Google Map



1 大溝陣屋 総門 Souman (Tourist Information Office)

かつての武家屋敷地の最も重要な門（正門）で、大溝陣屋関連でただ一つ現存する貴重な建造物として高島市の指定文化財となっている。



2 大溝城跡 Omizo Castle ruins

初代城主は織田信長の甥・信澄、設計は明智光秀といわれる。当時は内湖を巧みに利用した水城であった。



3 乙女ヶ池 Otomegaike Pond

かつては大溝城の外堀として利用された内湖で、昔の琵琶湖の湖岸風景を残す貴重な場所となっている。



4 打下の集落 Uchioroshi Village

打下（うちおろし）は琵琶湖と内湖の間にできた砂州に広がる集落で、水を巧みに取り入れた生活が特殊な景観を形成する。



5 町割り水路 Machiwarai Canals

城下町の整備の時に作られた生活用水・防火用水のための水路で、水の豊かな大溝ならではのまちづくりの一つ。



6 タチアガリ (古式水道) Traditional Waterworks

湧き水をサイホンを利用した溜め枧（タチアガリ）で受け止めて、竹筒に流して家々に分配した江戸時代の上水道の仕組み。



7 高島びれっじ Takashima Village (Restaurants & Shops)

江戸時代の旧商家を商工会の有志者ら自らの手で改修し、食事や体験を楽しめる店舗となっている。



大溝祭 Omizo Festival

日吉神社の春の例祭で、湖西唯一の曳山祭。毎年5月4日に本祭が行われる。大溝の各町内に五基の曳山収納庫（山蔵）がある。

- 凡例
- 万葉歌碑
  - 曳山収納庫
  - 旧町名標識



## 重要文化的景観

日本の多様な気候風土の中で、人々が地域の自然と関わりながら生業を立て、生活を営みながら、長い年月をかけて築き上げたその土地ならではの特徴的な景観を文化的景観といいます。その文化的景観の中でも、地域の特色を示す代表的なものや、他に類例を見ない特別なものとして国が選定したものが重要文化的景観です。「大溝の水辺景観」は、平成27年に国の重要文化的景観に選定されました。



## 日本遺産

文化庁が我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定し、それを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財を総合的に整備・活用・発信することにより、地域の活性化を図るために創設したプロジェクトです。「大溝の水辺景観」は平成27年に認定された日本遺産「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財の一つとなりました。

高島市教育委員会